

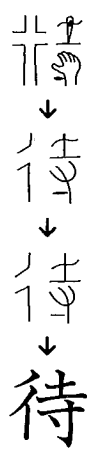
# 待

三年

回数 9  
筆順 待  
オン タイ  
クン まいっ

待 待

成り立ち



道の形をあらわし、「行く」といういみをあらわした「待」と、「やくしよ」をあらわした「寺(年152)」とを組み合わせた字です。

「やくしよ」に「行」き、そのさしずを「まつ」とをあらわした字です。「まつ」といういみ、「まちうける」といういみの字です。

また、そのときの「やくしよの」とりあつかい「のいみから、「とりあつかい」といういみにもつかわれます。

「待遇」「接待」の「待」は「とりあつかい」のいみですが、「接待」のばあいは「よ」とりあつかい「のいみでもてなす」ことです。

使い方

▽長いこと待望していた京都の見学もきょうでおわりますが、期待していたよりもすばらしいたびでした。  
▽山下くんのたんじょう会に招待されて行きましたか、たいへんな歓待をうけてどうしたらよいかこまるほどでした。

熟語例

▽待望(待ち望むこと)。  
▽期待(期(年214)は「あてにする」こと。あてにして待つこと)。  
▽待機(よいいして機会を待ちうけること)。  
▽招待(招いて「もてなす」こと)。  
▽歓待(歓迎し接待すること。歓は「よろこぶ」こと)。  
▽接待(お客に接して「もてなす」こと。接(年763)は「近づく」「ふれる」といういみ)。  
▽待遇(遇は「会う」といういみの字で「もてなし」のいみにもつかわれる字です。「もてなし」、または「とりあつかい」といういみ。また、「しごとばにおける地位や給料のとりあつかい」のことにつかうこともありま

# 代

三年

回数 5  
筆順 代  
オン タイ  
クン か

代 代

成り立ち



一本の木のえだをむすび合わせ、地めんにつき立てた「目じるし」の形をあらわした「弋」と、「イ」とを組み合わせて作った字で、「代わりだ」という「しるし」をもった人」をあらわした字です。今の「代理人(本人に代わ

つてものごとをする人」といういみの字です。代理人は、本人の代わりだという「しるし」をもっていないければなりません。だから、「しるし」をもっていれば「代わる」

ことができるので、「弋」と「人」とで「代理人」といういみをあらわし、また「かわる」といういみをあらわしました。ものを買って自分のものとする代わりにはらうお金を

代(古いことばでは「しろ」)と「いいます。

また、「ある時期」「ある期間」といういみにもつかわれます。例)古代、時代、年代。

使い方

▽おおかさんが、ぼくに用を言いつけたのですが、ぼくはどうしてもやらなければならぬことがあったので、おとうとに代わってやってみてもらいました。  
▽小さな女の子がゆうかいされて、身の代金を要求されるという事件がありました。小さな女の子をゆうかいして、身の代金を要求したり殺したりするなんて、卑劣なことです。ぼくは、そんな男はひどい目に合わせてやりたいと思います。  
▽日本の国歌は「君が代」といいます。「君が代は千代に八千代に、さざれ石の巖と成りてこけのむすまで」という歌詞です。

熟語例

▽身の代金(身に代える金。人の体を返してもらうために、代わりに払うお金のこと)。  
▽古代(古い時代。歴史学上の区分でいえば、古代が一番古く、次が中世、その次が近世、近代、現代と続きます)。  
▽時代(歴史学上で区切られた、ある長さを持った年月。「明治時代は遠くたった」などと、つかいます)。